

博物館学実習生の受け入れ

一昨年度からおこなっている博物館学実習生の受け入れも3年目をむかえました。今年度は9月2日から6日までの一週間、実習生の受け入れをおこないました。実習生は帝塚山大学から6名、奈良女子大学から2名、京都橘女子大学、東京農業大学、専修大学、徳島文理大学、大阪明浄大学から各1名の計13名と、昨年度の8名に比べるとかなり増加しています。また、学生の専門も文化財だけではなく、日本文化や造園というように多岐にわたっています。



博物館学実習風景

飛鳥資料館が博物館学実習生の受け入れをおこなっているということが、各大学関係者に認知されてきたのでしよう。

実習は、展示の実際（構成から展示まで、展示品の借用）、展示解説の実際、博物館と建築史、博物館展示の新傾向、博物館のI T化、新しい博物館学構築に向けて、と題して講義および演習をおこないました。以下、その一部を紹介します。

「展示品の借用」では、展示品貸し借りの際の作法について当館の展示品を例に講義をおこない、演習として展示品の梱包から開梱までを実際に実習生がおこないました。当館の性格からして、発掘調査で出土した遺物（考古遺物）を取り扱うことが多いのですが、実習生のほとんどが考古学専攻ではないために、はじめて考古遺物を取り扱う実習生も多く見られました。

今年度の博物館学実習が、実習生にとって有益なものとなったことを期待します。

（飛鳥資料館 西山和宏）